

単元案の概要

単元名:雪国でつながろう!					
科目名	第二外国語としての日本語	作成日	2016年11月1日	作成者	馬氷、甲田菜津美、植田志穂、松浦幸祐 アドバイザー:杉本香、藤原京佳
学年/年次	中国の高校2年生	クラス人数	20名を想定	使用教材	テーマと関連する文献、Webページ、ビデオなど
話題分野	文化	言語レベル	レベル1	必要時間数	45分×週2コマ、20回(後期)
単元目標					
1. 吉林省の特色(雪と生活)を理解し、日本語で発表できる。 2. 吉林省へ行ってみたい!と思ってもらえる発表ができる。 3. 日本人高校生との相互発表を通して、日中の共通点・相違点を探る。					
コミュニケーション能力指標					
【自分と身近な人びと】 1-a. 名前や属性を言ったり、尋ねたりできる。 1-c. 簡単な自己紹介を、口頭でまたは書いてすることができる。 【学校生活】 1-a. 学校の名前や所在地を、言ったり書いたりできる。 【人とのつきあい】 1-a. 人との付き合いでよく使う基本的な挨拶表現を、言ったり、聞いて理解したりできる。 【地域社会と世界】 1-e. 自分の住んでいる町や都市の有名な場所や食べ物などを言うことができる。					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
●第3回～第6回 「雪と生活」にまつわる語彙マップの作成 ●第13回 発表資料の作成 ●第14回 発表で使う日本語の導入&練習 ●第17回 札幌の学生からの質問に答えるための日本語練習			<場面状況> ・中国吉林省の公立中学校(学生の年齢は12歳～18歳) ・吉林省は雪国。同じ雪国という関連から札幌に姉妹校を持つ。 ・高校での第二外国語学習の総まとめとしてのプロジェクト型学習。 ・姉妹校とビデオチャットを通して日中の文化紹介をする。  <活動の流れ> 別ページ参照		
評価活動					
形成的評価			総括的評価 ※別途ルーブリックを作成してください		
(1)語彙マップ(第6回) (2)発表資料(第13回) (3)リハーサル①②(第15回、第17回)					

学習シナリオ	
<b>【プレ・コミュニケーション活動】</b>	
第1回	最終目標(姉妹校との交流)提示。札幌の生活がわかるビデオを視聴
第2回	「雪」について連想ゲームをする。出てきたキーワードをグルーピング(衣、食、住、祭り、雪対策など)グループで相談し、興味関心のあるテーマ(=発表テーマ)を決定。 ◆HW:連想ゲームで出てきた語彙、表現を日本語にする。一人10個程度。
第3回	HWの語彙をグループ内での検討と、教師によるチェック&FB
<b>【コミュニケーション活動】</b>	
《Part1:小さい発表を体験してみる》	
第4回	グループごとに各自がHWで調べてきた語彙を持ち寄り、模造紙に語彙マップを作る。
第5回	ポスターセッションの形式で、語彙マップをクラス内で共有。
第6回	グループごとに語彙マップを整理してA4用紙1枚分にまとめる。教師は1冊にまとめて語彙帳を作成。
《Part2:調査とリハーサル》	
第7回	吉林省(中国)がどのように日本で紹介されているかがわかる資料を紹介。 (日本が出しているガイドブックや旅行番組、ドキュメンタリーなど)日本人の視点に立って、興味深い点を考える。そのうえで、語彙帳の中で日本人が興味を持ちそうな事柄、ぜひ紹介したい点にチェックする。
第8回	教師から図書館、インターネットでの資料の調べ方を紹介。グループ内で資料収集の役割分担。
第9回	資料収集①
第10回	資料収集②&個人で調べたことをA4用紙1枚分程度にまとめる。
第11回	個人で調べたことをグループ内で共有。
第12回	PPT、ポスター、スキット、クイズなど様々な発表形式の良い点、難しい点を検討し、発表形式を決定
第13回	発表資料作成
◆発表資料提出	
第14回	発表に必要な日本語の練習
第15回	リハーサル①
《Part3:発表と振り返り》	
第16回	リハーサルの振り返り (ブレインストーミングの要領で各グループ良かった点、改善点をポストイットに書き出して共有)
第17回	リハーサル②※札幌の学生の質問に答えるための日本語練習を中心に
第18回	発表①発表②(形式:各グループ10分。札幌の高校生は中国語で札幌紹介。吉林省の学生は中国語でコメントや質問などをする。吉林省の学生は日本語で紹介。札幌の学生に日本語でコメントをもらう。コメントの際は、教師の通訳を適宜交え、理解を促す。※生徒同士であると、語彙や速さなど、コントロールできない可能性があるため。)
第19回	
第20回	感想や身についたことなどを各グループで考え、クラスで共有。個人で振り返りシート記入。

3×3+3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪と生活」に関する語・表現を知り、理解する。</li> <li>・発表で使われる語・表現を知り、理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪と生活」についての日本と中国の共通点、相違点を発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの発表・姉妹校の発表を受けて、他者の文化をどのように受け止め、どのように接していくかを考えることができる。</li> </ul>
できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪と生活」に関する語・表現を使える。</li> <li>・発表に必要な語彙リストを作成できる。</li> <li>・発表資料を作成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪と生活」についての日中の相違点・共通点は何に基づくものなのか考え、説明することができる。</li> <li>・自分が住む地域の魅力が説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で必要な資料を探せる。</li> <li>・インターネットでテーマに関する記事を探し、その出典までたどり着ける。</li> <li>・発表に必要な情報を取捨選択できる。</li> <li>・発表に必要な情報を関連付け、まとめられる。</li> </ul>
つながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習言語を用いて、相手に発表を行う。</li> <li>・相手の発表に対して感想を述べたり、質問したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪と生活」の発表交換を通して、日本と中国の文化を共有する。それにより、相手国、相手国に住む人への関心・理解を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の地域の情報・人にアクセスする。</li> <li>・発表準備において、自分の能力・知識・時間などを提供し、メンバーと助け合い協力して行動する。</li> <li>・ほかの国・地域の雪と生活に関わる問題にも関心を持てる。</li> </ul>
三連携	<p>【学習者:関心・意欲・態度/学習スタイル】「雪と生活」にまつわるテーマに関心に合わせて選び、自然と文化のつながりに関心を持つ。</p> <p>【教室外:教室の外の人・モノ・情報】インターネット・図書館を適切に利用し、情報収集する。</p> <p>【他教科:既習内容・経験/他教科の内容】地理の授業などで学んだ中国の知識を援用する。</p>		

総括的評価のルーブリック

→レベル	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
↓評価要素				
発表内容	札幌と吉林省それぞれの特徴を考慮した上でのテーマ設定である。札幌の高校生も「吉林省へ行ってみたい！」と興味を持てる内容である。図書館やwebで調べた資料を総合した上で、独自の視点が盛り込まれている。リハーサルでの反省、フィードバックを経てさらに改良されている。	札幌と吉林省それぞれの特徴を考慮した上でのテーマ設定である。図書館やwebで調べた資料を総合できている。リハーサルでの反省、フィードバックが反映されている。	札幌と吉林省それぞれの特徴を考慮した上でのテーマ設定である。しかし、図書館やwebで調べた資料の紹介にとどまっている。リハーサルでの反省、フィードバックを経て、まだ改良されていない点が見られる。	札幌と吉林省の共通点あるいは相違点のどちらかしか捉えられていない。図書館やwebで調べた資料に偏りがあり、信憑性に欠ける内容である。リハーサルからあまり改善が見られない。
プレゼンテーション	テーマを紹介するのに効果的な発表形式が選んでいる。制限時間を考慮した内容量で、資料も見やすい。発表の日本語が聞き取りやすく、聞き手とのコミュニケーションも図っている。	テーマを紹介するのに適した発表形式が選んでいる。制限時間を考慮した内容量で、資料も見やすい。発表の日本語が聞き取れる。	テーマを紹介するのに適した発表形式が選んでいる。制限時間に対してやや多い/やや少ない内容量であり、資料はわかりにくい箇所がある。発表の日本語の中で聞き取りにくい箇所がある。	テーマを紹介するのに適さない発表形式である。制限時間に対して多すぎる/少なすぎる内容量で、資料もわかりにくい。発表の日本語が聞き取りにくい。
グループワーク	役割分担に沿って自分の責任を全うしているだけでなく、他のメンバーと積極的に協働できている。グループで統一された発表ができている。	役割分担に沿って自分の責任を全うしている。話し合いに参加できている。グループで統一された発表ができている。	自分の責任を全うするが、他の人の担当には興味を示さない。話し合いには参加できている。各自が担当した箇所を並列するにとどまる発表である。	役割分担に沿った自分の責任を果たせていない。話し合いに積極的に参加できていない。各自が担当した箇所を並列するにとどまる発表である。